

◎ホルスタイン種牛の輸入

岡山県は昭和三二年ホルスタイン種牛牛バブスト・ウオーカー・コバーク号とジャージー種雄牛ブローニーズ・ツインクリングスター・オブSNF号を輸入、その後三六年にジャージー種マール・フアッシュン・アンソム号を輸入したが、ホルスタイン種はその後輸入がなかった。そのため本年度はホルスタイン種の種牛を輸入することになり、去る七月橋本畜産課長がアメリカ、カナダに出張、購買に当たった。その結果カナダ・オークリッス牧場産のオーク・リッジス・コンテスター号を購入、二頭の種雌牛と共に九月末酪農試験場に入った。

本牛はカナダのABC・リフレクジョン・ソプリンの近親繁殖によって作出された名系統である。父牛ローマンデル・リフレクジョン・マークイスの息・娘牛は一九六八年度全アメリカ、およびカナダのチャンピオンを独占しており、母牛もまた二才、三才連続して全カナダチャンピオンを獲得した名牛で、今後本県での改良が期待される。

◎酪農試験場が中四国における酪農の自立経営農家の育成の基礎となる技術体系を早める

酪農試験場が中四国における酪農の自立経営農家の育成の基礎となる技術体系を早める

急に確立するため、岡山県酪農試験場を中四国の中核試験場に指定、施設の整備を図ることになった。

これにより南部水田酪農を中心とした技術体系が確立されることは慶ばしいことである。

◎岡山県酪農連 十周年記念式を挙げる

昭和三四年生乳の共販体制を確立するため、岡山県酪農協会を解消、県酪農連を設立してより今年で一〇年を迎えた。創立当時の乳牛頭数は一三、五八〇頭、

◎岡山県肉用牛 子牛価格安定基金協会発足

前年度より準備を進めていた本協会は去る四月九日設立総会を開催、いよいよ本格的に発足したが、早速子牛価格の下落を見たので補てんを行うなど、設立早々の肉用牛の発展のために重要な役割を担うことになった。

◎第二回全国和牛 能力共進会参加

本年七月一日から開始された第二回全国和牛能力共進会に本県からも大量一三九頭が参加した。前回優秀な成績を収めているので、今回も全県を挙げて力を入れている。来年五月鹿児島で開催される集合比較審査にも岡山牛の名声を博するよう努力しなければならない。

◎岡田正徳氏日本農林漁業 振興会長賞受賞

昨年第一回全日本ジャージー共進会で農林大臣賞を受けた岡田氏は、本年の農業祭の畜産部門でおしくも天皇盃にはも

岡山県畜産の今年の主な動き

れたが、日本農林漁業振興会長賞受賞の榮譽を獲得した。先年の沖田氏の天皇盃受賞に続く榮譽で、本県畜産界のために誠に御同慶にたえない。

◎第一回中国地区 獣医師大会開催

第一四回中国地区獣医師大会が去る十一月六日、岡山市において盛大に開催された。当日は第一五八回日本臨床獣医学会、第一一七回日本獣医公衆衛生学会、第二八回日本獣医畜産学会（以上三学会はいずれも中国地区）の三学会が併せて開催され、中国各県より多数の会員が参加、貴重な研究発表が行われた。

◎旭東畜産公社設立

岡山市、上道、長船、邑久、牛窓の各町と旭東酪農協の六者が出資団体となり旭東畜産公社を設立した。主な事業は水田酪農地帯の子牛の育成を一手に引受けるため、長船町に育成場を設置することになった。敷地は四〇ヘクタールでそのうち一五ヘクタールは本年度草地改良事業を完成、来年度は残り二五ヘクタールの草地改良と、避難舎、看視舎等の施設を完備し、常時一五〇頭の育成牛を収容すべくに旭東内に事務局を設置、着着準備をすすめている。牛の収容は四六年度から開始される予定である。

アイディア農業の推進について

倉敷農業改良普及所 所長 小島 勝 之



瀬戸内臨海工業地帯である水島を中心とし、倉敷地方は県下唯一の工業都市として発展しております。

農業においても、これらの影響を受けて、大きく激動しております。すなわち、離農する農家、兼業化の著しい増加と北部地域の過疎現象が、それをよく物語っております。

農家の階層分化も数年前より甚だしくなり、現在もそうでありますが、今後一層分化し、多様性をもってくるものと思われま

しかし、数少ない専業農家ではあります。農業に積極的にとりくむ熱意のあるものも増加しており、真の自立経営農家においても、いろいろ変化と悩みがあります。

経営規模の拡大が困難となっている。都市化は農地をつぎつぎに蚕食し、地価の昂騰によって、経営規模の拡大はできなくなっています。したがって運動をしない、粗飼料を給与しない大家畜の飼養型態が生じて、経営不振になりつつあり、さらに牧場まで観光計画がのびてくる現状であります。

畜産公害といわれる問題も増加している。住宅地が拡がり、いつの間にか畜産農家の周囲は、非農家ばかりになり、「クサイ、キタナイ、畜産公害だ」といわれて肩みのせまい思いをし、感情的なトラブルが生じています。

新しい都市は、緑地帯を計画的に造成していく必要があり、防災の上から、また大気清浄の意味から、さらに市民の憩いの場として花卉、野菜、果樹などの農業ベルト地域が必要でありま

したがって、市街地に接近する農業は、その点で考慮しなければならぬのです。

畜産農家は、地価の安い地帯でのびのびと経営を行なわせることが必要です。

近代的な畜産団地の育成 あらゆる条件から検討した適地に畜産団地を造成して、意欲のある畜産農家の移転をはかることが必要で、過疎地帯にはその条件にあてはまる場所がありません。部分協業も取り入れた、近代的な機械化省力された畜産経営農家を育成したい。これについては現在一部計画中で、実施も間近のものと思われています。

総合農政のなかで、畜産の社会的分業を推進する。家畜の飼養規模が大きくなると、粗飼料の確保が一層むづかしくなってきます。その反面、兼業化の進行と稲作転換が行なわれようとするとき、これらを利用した良質粗飼料の生産を、社会的分業として結びつけていくことが必要であるように思います。また、乳牛、鶏の育成なども

将来は分業を考えなければなりません。

丘陵の草地酪農地帯は、観光地造成としても適地でありま

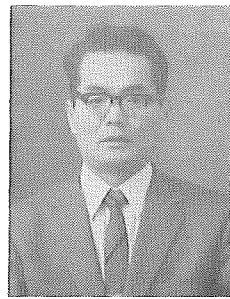
世はまさにアイディア時代でありま

す。農業をする者も、それを援助する普及員も、また畜産行政を担当する者も、いろいろなアイディアを出しあって、相互の協調によって困難な時代の農業問題の処理と、改善が重要であろうと思いますが、いかがなものでしょうか。

農林事務所畜産係長の発言 (その6)

蒜山三座

勝山農林事務所畜産係長 逸見 莊



蒜山三座、神庭の滝の紅葉も終り、本年造成播種した牧草もやっと耐霜力を増して来る頃、ここ県北真庭の地は連日秋雨を呼び、早や一足とびに冬の季節、そして来春までの向う半年間、僅かに湯原の湯客と蒜山のスキー客のみで、この地は人々の話題から遠ざかり、最大の来客、冬將軍の訪れとなる。そして郡南部の一部を除き、家畜への生草の供給もあらゆる農作業も完全にストップする。

この季節、他産業との所得較差に追いつくための必死の努力、それは若壮年層の出稼ぎとなり、大部分は婦人層と老年のみが家畜の管理と家を守りながらの冬越しとなり、そして過疎現象へと繋がる。これが県北での大部分を占める現状といえるでしょう。

さて今年の西(取)年も肉用牛、豚の下落、牛乳の消費の伸び悩みに加えて米価の据え置きと、何の畜(畜)産にもなりかね年末が近づき、まさに畜産受難の年、このしんがりを受け持ち、ここ作北の地から最近特に感じたことを二、三点を掲げ私見を試みてみたいと思います。

これら大資本の進出がチラホラ聞かれ、特に最近におけるブローラー等において着々とその歩をため、ついで牧野経営による肉用牛、そして養豚への資本投下進出の地下が散見され、流通革命とも考えられる中国貨買道の完成による真庭黎明期を向える時には、我々農家は、従来の自らが優位性のある飛躍のでき得る経営者である個々の農家から失墜し、資本家の手付的役割である単なる技術労働提供者になるのではないかと危懼するわけですが、この現象の善悪は私には判らないが、どの道誰れかの手で(それが大手メーカーであれ農家であれ)畜産が振興し、家畜が増頭し乳、肉、卵の提供がなれば、国家的経済機構から考えるとき成功であるかも知れない。

しかし我々農民、農家はそのときどこで呼吸しているのであろうか。考えて見ると、畜産農家への期待は約一〇年前の農業基本法の制定、それに次ぐ農業振興の選沢の拡大による果樹および畜産へと期待は大きかった。そして現今の総合農政により、さらに畜産に重点をおく将来の日本の農業の中における畜産へと期待はさらに大きく、好むと好まざるにかかはらず大手メーカー進出機運の波における多頭化の中において、先陣をうけたまわっている我々畜産農家はどうか対処すべきか、大きな課題である。大資本による多頭化(マンモス多頭化)と我々農家の多頭化(トランジスター多頭化)、これは

今仮りにこれらの価格が半額になったとしたら、その需要は飛躍するであろうし、鶏卵に見られる如く日常常食として不変的役割を果たすであろうが、その消費者価格が高いこと、即流通機構の問題があることに留意し、系統機関は真に弱小農家の抱えとなり、体質強化と再編成を図り、大手メーカーに対処していただきたいものである。

省力と商力
飼育規模の拡大に伴い、省力化が要求され、終年放牧等、特に哺乳期における子牛の放牧、預託、育成はますます増加する傾向にある中で、放牧牛において、最近市場でその価格差が問題になっており、特に子牛の格差はゆゆしい問題であり、当地方でもしばしば遭遇し、繁殖地帯であるだけに特に心すべきである。

その飼育方法と売買方式の再検討の必要性が生じ、予備放牧、増飼いの問題等はもちろんのこと、上場前に下見をして規制、漸後の飼育期間を助成している町村もあり、せりのあり方に問題があると見、放牧牛上場区別、あるいは現地(山等)でせりを開設しると極論する人さえあるが、「商う力」の在り方として、一考を要するのである。

蒜山とジャージ
水と魚の如く、蒜山とジャージは切っても切れない仲、しかし我々は技術のみ

を導ぶのあまりまだまだ種々の面におけるPRが不足している。ジャージ牛を知らない人は私達近辺にはまだかなりある身近な農業関係者の中でさえ、あの人が思われる人の中にもある。当ジャージ地区において微力なことを今さら痛感し慚愧に耐えない。

畜産と真庭
現今の肉用牛の漸減、牛乳の消費伸び悩みによる酪農意欲の阻害、豚、鶏の多頭化と公害問題に対する環境の問題、伝染病による飼育熱の低下等、山積する畜産問題は多いが、幸い当真庭地方は、畜産王国真庭の真髄を發揮して、肉用牛の逐次増頭六、九〇〇頭(一戸当り一、八〇〇頭)、酪農の順調な伸びジャージ三、一三〇頭、ホルスタイン二、九〇〇頭(五、三頭)、養鶏採卵鶏一五三、〇〇〇羽、ブローラー七六、〇〇〇羽(五七羽)、三六七羽)、養豚二、二〇〇頭(八、九頭)と、国、県の標準を上廻る伸びを占め、意欲的な経営拡大に踏み切っており、生産基盤の整備による自給飼料の増産、家畜の改良増殖、経営安定、流通改善へと、幾多事業を県下に先がけて関係機関一丸となって推進実施し、真庭を畜産で象徴しておられることは、誠に心強い限りであります。

この意気をもって各部門各機関ともさらに相寄り相携えて、来るべき自由経済と資本攻勢に対処したいものです。

地造成が根幹となる。幸い、県中北部で広大に存在する自然原野は畜産農家にとっての泉源である。当真庭地区にも大規模草地五六一、中規模草地一、一一九、牧野改良九一、単県小規模二五、非補助四四七、小圃地四九、計二、二九二ヘクタールの草地造成改良面積と、さらに約一、四〇〇ヘクタールの大規模、小規模、草資源利用、飼料基盤整備事業等可能面積、そして自然草地、林内利用面積二、二〇〇ヘクタールを存しており、畜産とは土地で飼う畜産であり、土地基盤利用によってのみ優位性あることを再確認し、畜産農家が土地を離れて経営の成立しないことをここにあらためて認識し、特に多額の経費をかけ、折角造成した草地を荒廃さずが如きはすでに敗北である。

しかし、これら牧野にも維持管理の省力化、預託料、放牧衛生等幾多の問題点があるが、当地区においてすでに実施している草地内での現地搾乳、共同方式による預託等広大な土地基盤での草資源利用こそが、最大の武器であることを忘れてはならない。そして生産された畜産物は強力な流通機構にのせるため、

③、畜産生産と消費の再編成を早急に実施することが重要となる。畜産農家は系統機関のもと、さらに強固に大同団結し、生産者であり、商人であることに目ざめて自らの手で価格形式を打ち立てるべきであり、現在の肉の消費、牛乳のダブつき等は決して余っているのではなく、

十二月号目次

アイディア農業の推進
小島勝之……1
蒜山三座……逸見 花……2
酪連創立十周年の
ごあいさつ……惣津律士……4
養鶏農協のページ
養鶏家の悩み……○ 生……6
新鋭種雄牛コンテスター来る
杜 陵暉……8
◇和試◇
岡山県の肉用牛雑感
……嘉寿頼栄……12
◇鶏試◇
鶏の生理と環境衛生
……諏訪一男……14
岡山県畜産の主な動き

勝負にならず、戦わずして負けである。これに打ち勝つのは至難のわざであるが、①、我々が幾代にも亘って永年築き上げた畜産技術をもって難関に対処することである。それは草作りであり、経営技術であり、飼育技術である。

②、我々には伝来からの土地基盤がある。これは土地から生産する畜産となり、草

明日の日本酪農を創る

子牛から大きく、強く、働く乳牛へ
子牛用高脂肪人工乳!

雪印配合飼料 (乳牛用) (肉牛用)
雪印ネオカーフ、ミルク
雪印カーフ、フード

各種乳牛用配合飼料 ◎カタログ進呈 御来店お待申し上げます。

雪印種苗株式会社

岡山営業所 岡山市巖井1482の1 TEL(52)0395



岡山県酪連

設立十周年のあさつ

会長 惣 津 律 士

経 過

本日、本会の一〇周年記念式を挙行しましたところ、ご多忙の折柄、農林省中国四国農政局長、岡山県知事殿はじめ、多数のご来賓のご臨席を辱まし、まことにありがたうお礼申し上げます。
本会は、生乳の共販体制を確立して、酪農家の生産能力をあげ、経営改善については社会的地位を高める目的をもって、昭和三十四年一月二十八日農林省指令三五号を以って設立の認可を受けたのでありまして、爾来一〇ケ年間、定款の定むるところによって努力しておるのでございます。

本会は、その前身ともいふべき社団法人岡山県酪農協会が生乳の共販について



長い時間をかけて慎重に研究しました結果、酪農専門連の設置に踏み切ったのでありまして、これは全国で初めてのケースであったと思えます。そして、協会の会員が本会設立と共に会員になりましたが、その後総合農協の加入が増加してまいりまして、現在では専門農協九、総合農協一七、連合会二、合計二八会員となっております。会員の組合員数は五、七〇〇余名であります。なお業務執行役員は理事一三名、監事三名、職員一七名となっております。

創立当初の生乳取扱量は年間七、三〇〇トンでありましたが、その後農林省、県ご当局的適切な御指導と会員、その組合員および関係会社、団体のご努力によって、酪農家の酪農振興への意欲が年々増大してまいりまして、経営の拡大、高性能の牛の飼育などによって、頭数は過去一〇ケ年間に三倍程度の増加でありますけれども、乳量は実に一二倍という成長を示すに到りまして、昨年度の生乳の取扱量は八万四、〇〇〇トンで、県下全生産量の九四パーセントに上り、金額四二億円、本年度は生産量九

組 織 整 備

万七、〇〇〇トン、金額五一億円に上る見込みでありまして、その増加率は現在では昨年比一二〇パーセントという全国一の驚異的躍進を示すに到っております。

さきに、県下農協連合会の組織整備問題に關連して、本会の組織機能の在り方についての再検討の必要が生じた結果、昭和三十九年十月二十八日付けをもって、岡山県農林部長から「現状の分析の上に立ち、将来の産業構造の変化をも勘案し、本県の酪農を推進し、酪農民の経済的、社会的地位の向上を図るため、最も適切な酪農団体の機能とその組織の在り方について」の諮問がありました。

本会は、酪農生産者団体の組織、機能など各般に互る現状を詳細分析検討しました結果、終局的には県下一円を区域とする酪農協の設置を目的とするが、機能について再検討を加え、問題点に対する整備、調整および改善を行なうこととして、第一次、第二次酪農組織整備計画を策定して答申しましたが、それを貫くものは酪農専門団体としての機能の強化でありまして、その後鋭意答申の線に添って努力してまいりましたのであります。

かような推移の内に、昭和四十一年四月、加工原料乳生産者補給金等暫定措置法が実施されまして、本会は、県下の生産生乳の受託販売事業を一手に引き受け

る機関として、県知事の指定を受けて、いわゆる指定生乳生産者団体となったのであります。

そこで、法の示すところにより、生産者所得保護方式による適正乳価の確保、生乳共販体制の推進を更に積極的に進めることに致したのであります。

実 施 事 業

本会の一〇年間の主なる事業といたしましては、生乳の共販事業の実施に伴う集送乳路線の整備、クーラーシステムの設置と買収については年次計画に基いて打撃努力中でありまして、その外に乳牛預託事業、乳価安定基金制度、乳質改善協議会の設置による乳質改善事業、農協有家畜導入事業、酪農共済制度の推進、生乳増産のための酪農振興特別事業および生乳緊急増産対策事業、アメリカカナダからの一〇七頭に及ぶ優良雌牛の輸入、凍結精液の取り扱い、第一回全日本ジャージー共進会開催への協力、日本酪農政治連盟岡山県支部連合会の設置による政治活動があげられます。

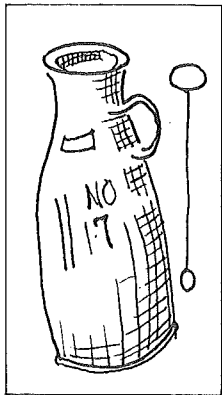
なお、適正乳価の確保については指定団体の重要な業務でありますので、本会は中央の情勢の推移をながめながら、必要に応じて酪農民大会を開催して酪農家の総力を結集して、毎年二〇数回に互る乳価交渉を精力的に行なっているのでありまして、幸いに、県内乳業メーカーの

酪 連 の 使 命

ご理解あるご協力によって、乳価は毎年上昇しております。現在の価格は市乳向けキロ当り五一円二〇銭、加工原料向けキロ当り四八円でございます。

本会の一〇年の歩みにつきましてはお手許に小冊子をお届けしておりますので、ご覧を願いたいのですが、本県の酪農は今こそやや安定しておりますとはいえず、今までの一〇年間は必ずしも順調に進んでいたとは申し難いのでございます。我国の酪農は、今後の農政の重要部門として各方面から限らない期待が寄せられておりますが、その基盤は卒直に申し上げて不安定な要素を多分にはらんでおります。

私達の先輩は努力に努力を重ねて、今日の酪農を築き上げてまいりました。しかし、今なお天気酪農と称せられ、需給の不安定による先行を酪農家は内心憂慮しながら、日夜懸命の努力を払っている現状であります。生産コストの引き下げが強く要請されながらも、容易に



きなくて、ずるずると日本酪農は自由化の波の中にあえがんとしています。しかしながら、酪農振興はぜひともやるとしなければならぬ事業であります。酪農に生きぬく精神、根生が今こそ必要となつてまいりました。私達は一日も早く安定した基盤の上に立って、世界の自由経済の中で実力を発揮し得る日本独特の酪農に成長せしめなければならぬ重要な責任をもちつております。

そのためには、国も県も、生産者団体も、乳業関係者も、更に消費者団体もそれぞれの分野において創意工夫をこらして、日本酪農の建設という点に力を結集していただきたいのであります。

本会は、五、七〇〇名の酪農家の結集団体であります。現在まで、私はあくまで酪農家の心を心とする団体になることを私の信条としてまいりました。そして、この一〇周年を契機として、時代の推移を十分に把握しながらこれに対処する方向に進み、酪農家の利益擁護に一段と進む必要を痛感しております。

今 後 の 力 点

本会としては、現在までの推移から将来を洞察するとき、次の諸点に力点を置きたいと考えております。

即ち第一は、酪農経営の専門企業化の推進であり、第二は生産費の低減措置として、自給

飼料基盤の整備、優良乳牛の資源確保を強力に実施しなければなりません。

第三に、現在進行中の集乳路線の整備、クーラーシステムの確保を一層促進し、

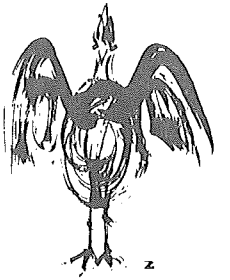
第四に、刻下の急務である乳質改善事業の促進、

第五に、牛乳製品消費拡大を図ると共に、酪農後継者の確保と研修、更に公害対策の研究を積極的に取り上げてまいりたいと考えております。

以上は極めて地道な基礎のための事業であります。これを取り上げてもなかなかの難事業であり、今までにくりかえしきざればきた事業であります。

本日ご来臨の皆様方は、酪農の権威者でありまたよき指導者でありますので、今日の酪農がどういう地位にあるか十分ご理解いただける方々であります。本会は、今後全力投球を致しますけれども、生産者団体にはそれなりに力量の限度があります。

どうか、農林省、県ご当局はじめ、関係の皆様のご協力によりまして、本県酪農の進展に寄与したいと考えておりますので、一層のご指導を賜わりたく、この席から伏してお願い申し上げますと共に、平素のご指導を感謝し、皆様のご多幸を祈念しまして、私のあいさつといたします。



養鶏農協の ページ

養鶏の悩みII 育成率の低下とその一対策

養鶏家、特に採卵養鶏家が、数年来最も悩み、経営難の主因にさえなっている問題に育成率の低下とその対策がある。育成率低下は、伝染性または亜伝染性疾患に起因するものが大部分なので、育成率低下対策は、すなわち鶏病対策であるといっても過言ではない。鶏病対策については、あらゆる機関がその究明に努めている。また、養鶏家自身も、自衛上いろいろの方法を試みているが、いずれも有力なキメテとなるものが発見されず、多大なギセイを養鶏家に強要しているのが現状である。

強制換羽の経験と現状

鶏の経済的寿命を人為的に延長し、経営向上に資する方法は、現在のところ、強制換羽とその実施時期を選ぶのが、最も有力なようである。

強制換羽は、種鶏家の場合は戦前からこれを実行し、効果を挙げて来たものである。種鶏家は、単に鶏卵を食用として販売することを目的としないで、鶏卵を

この問題は、一地域の問題に止まらず全国的な大問題になっている。根本的な対策がないだけに、神がかり的な方法まで横行して養鶏家を悩ましている。現状では、消極的ではあるが、鶏の経済的寿命を人為的に延長し、育雛回数を減らせる方法に関心が集まり、各地でその試みがなされている。諸外国より到来する業界誌にも、それがしばしば紹介されているのを見ると、この問題は、世界的ともいえそうである。

薬剤添加飼料給与法

この春、前後して二例行なったが、それは従来種鶏家が行なっていた絶食、絶水による方法を春に適用したものと、最近開発された薬剤添加飼料給与による方法の二通りであった。

後者の方法は、某社より提供された薬剤を次の通り飼料に添加混合し、今年三月六日より実施した。

絶食絶水による方法

- 第一区 〇・〇一%添加 一週間給与
- 第二区 〇・〇一%添加 二週間給与
- 第三区 〇・〇二%添加 一週間給与
- 第四区 〇・〇二%添加 二週間給与
- 第五区 薬剤無給与 対照区

これは、種鶏家が、秋期に慣行として行なっていた方法であるから、特に対照区を設けることなく行なったが、同一方法で、秋期に行なったものと比較できたことは有意義であった。

1. 絶食絶水期間

- 1. 点灯をしたまま実施できるので、同一鶏舎に収容している他の鶏に影響を及ぼさない。
- 2. 薬剤添加給与期間中は、対照区に比して、飼料の摂取量が約七〇%に過ぎなかった。また、保健上の支障もみられなかった。
- 3. 他の試験区では、一部頸換羽に終わったまま、産卵を開始したものがみられ、これらは再換羽のおそれがあるが、第四区では全群完全に換羽した。
- 4. 産卵は、二十五日目より全羽数が再開し、産卵五〇%に到達するには三十五日を要したに過ぎなかった。

三月二十日より二十六日までの一週間絶食し、二十日から二十二日までの三日間は水も与えなかった。

- 1. 絶食した後は、絶食終了後六日目に絶食給与にもどした。それまでの期間も特別な飼料(例えば燕麦、麩等)を給与することなく、単に日常の配合飼料の量を漸増したに過ぎない。
- 2. 事前処理

通常の観察で、少羽数の淘汰を行なつたほか、特別の選択はしなかった。省力化のため、平飼いとしたが、鶏舎の清掃を特にすることなく敷ワラ、鶏糞等もそのまま実施した。もちろん、点灯はやめ、駆虫剤を与えた。

- 3. 試験鶏と管理環境
- 4. 試験経過

昭和四十二年八月二十六日餌付け五七二日齢(約十九カ月) 一四一五羽を、単に鶏舎のついでランダムに左の二群に区

分し、対照区は設けなかった。いずれも、平飼い群飼であり、あえて、二群の羽数を同数にするこもしなかった。

産卵率 予備検査中の全群平均四一%
卵率重 全群平均 六二、〇グラム
日齢、産卵率とも、当然オールアウトに該当する鶏群である。

(註)◇卵数が、試験開始前より厚くなり、平均卵重量も約一グラム増した。これは産卵末期に多い薄殻による破卵防止に有効◇鶏舎のついで、両区の試験期間に大差ができたのは残念だったが、採算推察用には役立つであろう。◇採算面の分析は、すべて割愛した。10生1



4. 試験経過

絶食 ~ 淘汰の日数と日齢
1区 124日間 - 695日齢
2区 222日間 - 793日齢

絶食 ~ 産卵50%までの日数
1区, 2区とも42日間

生存率
絶食 ~ 淘汰
1区 91.7%, 2区 89.2%
絶食 ~ 産卵50%時
1区 96.3%, 2区 96.9%

ヘンダー産卵率
絶食 ~ 淘汰
1区 47.2%, 2区 49.3%
絶食 ~ 産卵50%前
1区 21.1%, 2区 17.3%
産卵50%時~淘汰
1区 63.1%, 2区 58.5%

オークリッジス・コンテスター

ローマンデル・リフレクション・マークイス
 ㊦ 260008

EX 体型銀牌保証種雄牛
 1959 2才級オールカナディアン
 1962~3 成年級オールカナディアン
 1960 成年級準オールカナディアン
 娘牛42頭 2才級の平均能力
 M5447kg F201kg 370%
 娘牛43頭 平均能力指数
 M122% - F122% BCA
 娘牛194頭の体格得点の77%がGP以上
 娘牛5 EX、38 VG、107 GP、43 G、1 F
 息牛5 EX、25 VG、17 GP、4 G

エー・ビー・シー・リフレクション・ソブリン
 ㊦ 198998

EX 特別保証種雄牛
 オールカナディアン 1949-50-51
 オールカナディアン父系群
 1953-4-5-7-9-61-62
 1968 父系群オールカナディアン
 オールアメリカン父系牛群
 1953-4-5-7-62
 娘牛250頭 平均能力指数
 M124% - F127%
 娘牛282頭平均体格91%GP以上

モントピク・ラグ・アップル・ソブリン
 ㊦ 155159

EX 体型銀牌保証種雄牛

エー・ビー・シー・インカ・メー
 ㊦ 559938

EX
 1947 4才級オールカナディアン
 4才365D-3X
 10950kg 512kg 467%

ボニー・ローソルム・テキサル・ハイ
 ㊦ 857432

EX 優良選種牛
 1956 準々オールカナディアン
 2才365D-2X-4951kg-171kg-345%
 3才305 - 2X-5659 - 220 - 389
 4才305 - 3X-6902 - 254 - 368
 5才365 - 3X-8353 - 299 - 358
 7才305 - 3X-8117 - 285 - 351
 8才365 - 3X-9250 - 334 - 361
 9才305 7051 - 262 - 372
 7乳期 52310 - 1900 - 362

ローソルム・テキサル・ハイクロフト
 ㊦ 160321

EX 体型銀牌保証牛

クレッドホーム・ネリー・ニグ
 ㊦ 429290

ムーアビル・サイテーション・スー
 ㊦ 1915009

EX
 1966 2才級オールカナディアン
 1967 3才級オールカナディアン
 1967 父系牛群オールカナディアンのメンバー
 1才305D 6150kg-281kg-456%
 3才305D 7090 - 304 - 434
 3才365 7671 - 344 - 453
 3才能力指数
 M157% - F185% BCA

ローザフ・サイテーション・アール
 ㊦ 267150

EX 特別保証種雄牛
 1965-6-7 父系牛群オールカナディアン
 1966 父系牛群オールアメリカン
 娘牛1460頭 2才平均能力
 M5105kg-F204kg-367%
 娘牛1839頭 平均能力指数
 M125% - F126% BCA
 娘牛2446頭体格80%GP以上
 66 EX、479 VG、1410 GP、443 G
 息牛80 EX、89 VG、42 GP、5 G
 家畜改良事業団所有
 オークリッジス・サイテーション・リントンの父牛

エー・ビー・シー・リフレクション・ソブリン
 ㊦ 198998

EX 特別保証種雄牛
 上 掲

グレンビュー・ネットイ・ジェマイマ
 ㊦ 547099

EX 13スター
 1954 成年級オールカナディアン
 9才323D 3X
 M10892kg F396kg 364%

グレンモア・ロジナ・ロッキンカー
 ㊦ 1520671

VG
 2才305D-2X-4898kg-169kg-401%
 3才305 - 2X-6703 - 284 - 423
 4才305 - 2X-6171 - 270 - 437
 5才305 - 2X-5465 - 227 - 415
 6才305 - 2X-6800 - 298 - 431
 7才305 - 2X-5758 - 233 - 401
 7乳期 2X 42315 - 1767 - 418

ウエイ・ブルック・リフレクション・ロッキンカー
 ㊦ 254438

EX
 娘牛28頭体格得点
 64% GP以上

グレンモア・ヘズル・ソブリン
 ㊦ 1363740

VG
 9才365D
 11231kg-417kg-371%
 8乳期 2 X
 70196 kg-2564 kg-365%

新鋭種雄牛

オークリッジス・コンテスター来る

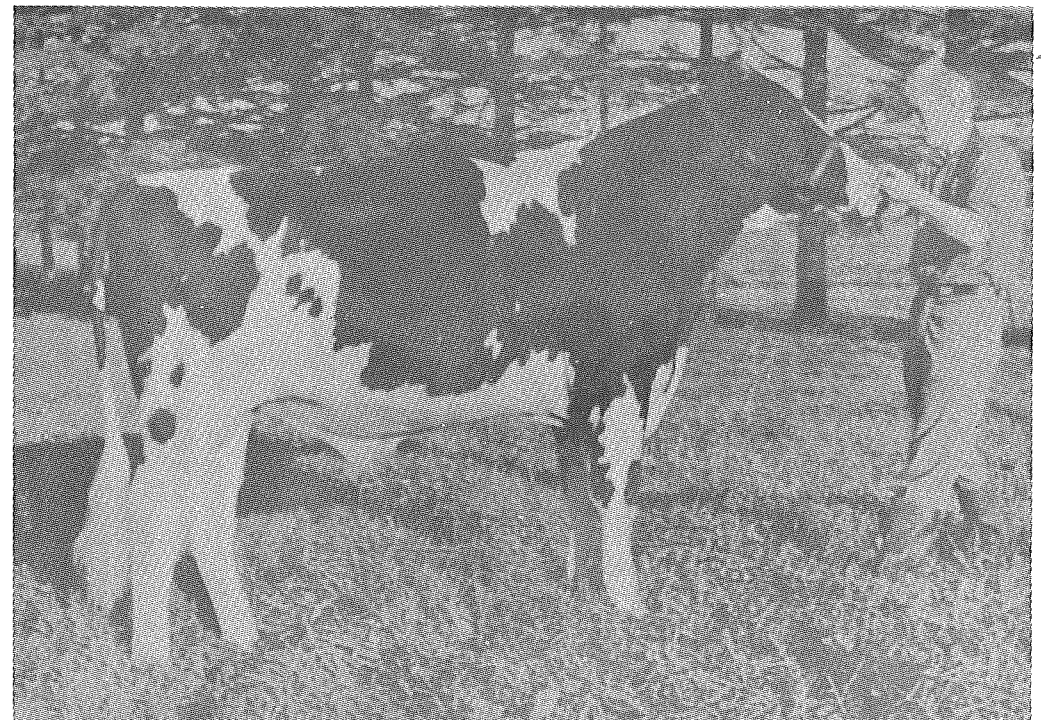
杜陵 胖

種雌牛二頭も全時に到着

本県の酪農も歳毎に躍進し、四万頭を突破する勢いである。経営が拡大し、安定してくると乳牛の改良が問題になってきて、本県でも酪農家の間で優良種雌牛の輸入を希望する声が高かった。家畜改良事業団の凍結精液の利用率も高く、改良に対する一般の意欲も旺盛であるため、県は本年度種牛を輸入することになり、橋本畜産課長を米・加に派遣、購買に当たった。その結果カナダ・オークリッジス牧場産の種雌牛とヘリテージ牧場とグレンナフトン牧場よりそれぞれ一頭づつの種雌牛を購入、過日酪農試験場に到着した。

種雌牛については昭和三十二年のパブスト・ウオーカー・コバーク以来の輸入であるが、別表の血統書のとおり、現在世界的に名声を拍しているABC・レフレクション・ソブリンの血を引くもので、大いに改良が期待される。

このABC・レフレクション・ソブリンは昭和元年カナダが輸入した名牛ジョハナ・ラグアップル・パブスト(オール・アメリカン四回受賞)の系統で、父はモントヴィク・ラグ・アップル・ソブリン、母は名牛ABC・インカ・メーでこの両牛の間に生れた不世出の名種雌牛として知られている。この種雌牛の血液が、父方に一回、母方に二回入っている。父親はローマンデル・リフレクション・マークイスでABCの孫に当り、E



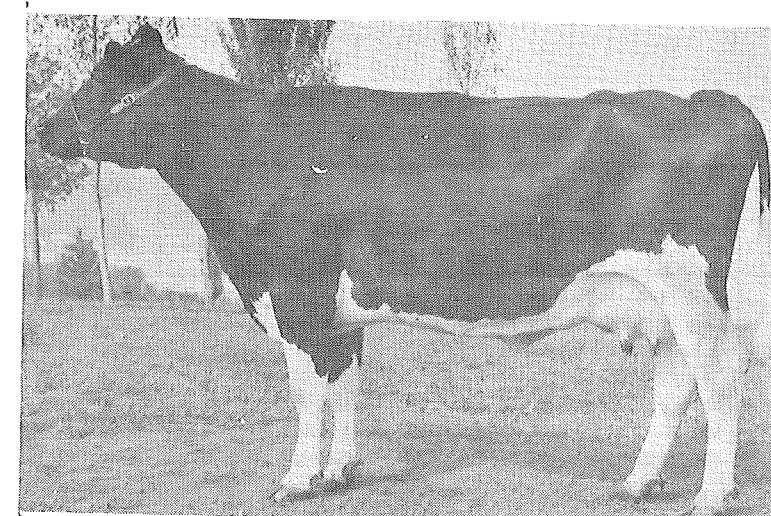
オークリッジス・コンテスター

49/12

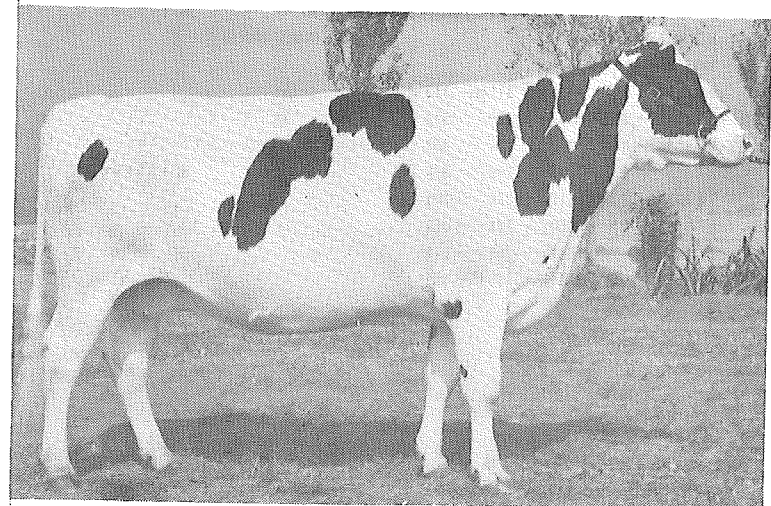
X 体型銀牌保証種雄牛、オールカナディアン二回受賞、母親もオールカナディアンと通りの能力である。
この名牛を両親にもつオーク・リッジ・コンテスターは四十三年五月二八日オークリッジ牧場に生れ育成されたもので、大型で体全体が伸々としており、鋭角的であるとともに、股間は広くよく切れ上っており、将来娘牛への好影響が

期待されている。
種雌牛タワークロフト・エープリル・ビューティ・シュープリームは三十九年九月十五日グレナフトン牧場に生れ、父ソソリー・テキサル・シュープリームはABC・リフレクション・ソプリンの孫で、オールカナディアン・準オールカナディアンを五回受賞、EXで体型銀牌保証種雄牛である。母親はビューティ・ビ

ユーロイヤルでVGである。
本牛も三才級でCNE共進会の第一位で、一乳期のカナダの能力指数(六才、二回搾乳、三〇五日、乳量五、三九九kg、乳量一九八kgを一〇〇とした比でMはM一二三、F一四七を示している。体型はVGで、乳脂率四・四一%、大型で発育もよく、基礎牛として期待される。



シーリング・アンナ・ペール



タワークロフト・エープリル・ビューティ・シュープリーム

この牛にはブラウンデール、マスタール(VG)、体型銀牌保証種雄牛、母牛は能力で世界チャンピオン(の種が入っている)以上のように今回購買された三頭は、いづれもカナダの名牛ABCリフレクション、ソプリンの血液が入っており、雄大な体型とその示す能力は、本県乳牛の改良に役立つものと期待されている。

シーリング・アンナ・ペール 2038303 (ヘリケージ牧場)

V.G 昭和40年8月22日生
1967当才級オールカナディアン候補に選ばれた 2才305日 5860kg-226kg-385%
1967.1才級プラント共進会第2位 1乳期能力指数M-138% F145%
1968.2才級エリン共進会第2位

体格測定値 (44.9.29)

体高	十字高	体長	胸深	胸巾	尻長	腰巾	肝巾	坐骨巾	胸囲	管囲
1458	1420	177.8	79.2	49.4	58.4	58.4	54.6	39.0	205.0	19.0

全姉妹牛
シーリング・リフレクター・ペール (VG)
4才-355日-6415kg-249kg-389%
2乳期平均能力指数M-134% F141%
種付 昭和44年5月27日
種雄牛 ブラウンデール マスター 283100
VG 体型銀牌保証種雄牛
娘牛 47頭平均能力指数M-112%、F115%、BOA
娘牛 71頭の体格得点の75%がGP以上
母牛 は能力で世界チャンピオン

シーリング・リフレクター 275218
EX 体型銀牌保証種雄牛
娘牛51頭、2才-5148kg-193kg-375%
娘牛58頭平均能力指数M-120%、F-121%BOA
娘牛68頭の体格得点の71%がGP以上
娘牛10 VG、38 GP、19 G、1 F
息牛5 VG、3 GP

シーリング・ジューン・ペール 1641204
VG
1才級ONE共進会の第1位
2才305日-6677kg-312kg-413%
3才305日-6950 -264 -415
4才305日-6619 -282 -426
5才305日-9185 -356 -388
312日-9255 -360 -389
6才305日-8378 -317 -379
5乳期2回搾乳 39320kg-158.9kg-404
5乳期平均能力指数M151% F166%
最高能力指数2才M162% F182%

- ウッドマン・インク・リフレクター 1298430A
VG 体型銀牌保証種雄牛
- シーリング・アンナ 1317453
EX 3 才級種雄牛
- シーリング・ダブル・トライアング VG
ロックウッド・ジューン・ロケット EX 5 才級
- ロザーフ・シヤムロック・ロザリンド 1356509
EX 1 才級
- A・B・C・リフレクション・ソプリン EX 特別保証種雄牛
インカ・ピーター・チェ・ピーマン EX 金牌種雄牛
- シーリング・トライコーン・ロケット EX 体型銀牌保証種雄牛
ロックウッド・アンナ・ロケット EX 5 才級
- A・B・C・リフレクション・ソプリン EX
ロザーフ・リフレクション・ペール EX 1 才級

タワークロフト・エープリル・ビューティ・シュープリーム 1965523 (グレナフトン牧場)

V.G 昭和39年9月15日生
1969 3才級ONE共進会第1位
2才305日5285kg 232kg 439%
348日5,665kg 250 441
1乳期BOA能力指数M123-F147%

体格測定値 (44.9.29)

体高	十字高	体長	胸深	胸巾	尻長	腰巾	肝巾	坐骨巾	胸囲	管囲
1440	1424	178.8	78.0	54.0	60.2	61.8	51.4	40.6	214.5	19.0

ソソリー・テキサル・シュープリーム 264804
EX 体型銀牌保証種雄牛
1961 成年級オールカナディアン
1962 成年級準オールカナディアン
1961 成年級準オールアメリカン
1962 成年級準オールアメリカン
娘牛 1146頭 2才級の能力4813kg、193kg、401%
娘牛 1340頭平均能力指数M109%、F119%
娘牛 2224頭の体格得点の58%がGP以上
娘牛 16 EX、160 VG、1114 GP、852 G、82 F
息牛 3 EX、26 VG、30 GP、1 G

- ローマンデール・シュープリーム 254607
EX 体型銀牌保証種雄牛
- テキサル・フォンド・ホープ・レディ 987647
VG
- A・B・C・リフレクション・ソプリン EX 特別保証種雄牛
リーラ・テキサル VG 5 才級
- スプリング・ファームフォンド・ホープ EX 体型銀牌保証種雄牛
テキサル・バイクロフト・コランサ EX 3 才級

ビューティ・ビュー・ロイヤル 1083278
VG
4才305日-4704kg-156kg-333%
5才305 -4989 -159 -319
6才276 -5037 -175 -347
7才297 -4906 -168 -343
9才294 -5062 -171 -356
10才263 -4985 -151 -302
11才305 -5214 -175 -335
12才305 -5742 -189 -329
9乳期2回搾乳 42051kg-1411kg-336%
8乳期平均能力指数M-98%、F89%BOA
最高能力指数12才M-116%、F104%BOA

- エグランティアス・エムペラー・ロイヤル 212372
VG 体型銀牌保証種雄牛
- ビューティ・ビュー・ソプリン・バスター 905193
VG
- モントピク・エムペラー・アジャックス EX 体型銀牌保証種雄牛
エグランティアス・ラグ・アップル・ビューティ VG
- ソプリン・カーク
フェンウィック・プレイ・ホームスビー・ジューン G

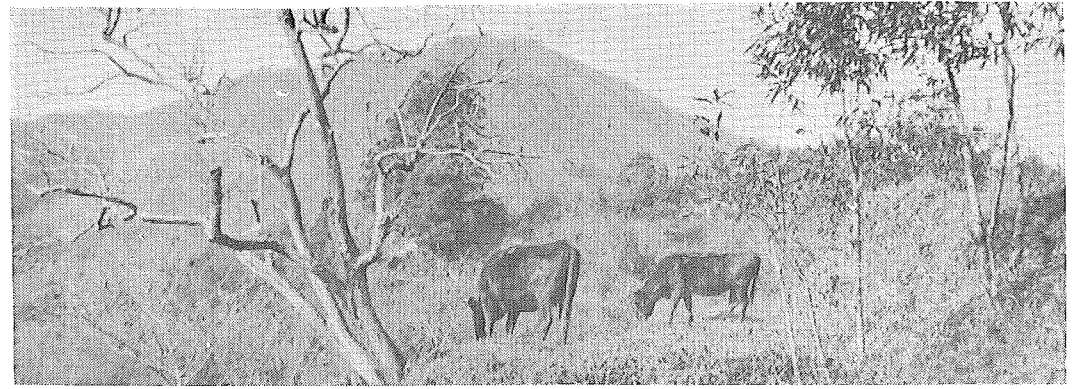
肥育牛に多発している 尿結石症を治療・予防しましょう

固定カウストーン

乳質改善 乳量増加に
毎日 **鯉 塩** をあたえましょう

日本全薬工業株式会社 日本全薬工業(株)岡山支店

郡山市昭和1丁目15-23 岡山県津山市坪井町34
TEL(2)5115 TEL(2)9251



和牛試験場だより

岡山県の肉用牛（黒毛和種）雑感

専門研究員 嘉寿頼栄

肉用牛のシーズンには、十月の種牛共進会から十二月の枝肉共進会がピークです。そこでこの機会に、岡山県の肉用牛のしかし、今年例年と違い、明春五月に開催される第二回全国和牛能力共進会期開のレース中で、違ったかたちの一つの

第二十五回岡山県畜産共進会の審査考察

雄の部

従来雄の産地は、阿新、真庭、苦津の県北三地区でしたが、近年優良牛の系統繁殖をすすめて来た勝田地区産のものが出品され、上位入賞牛が出てくることは、まことよきことばしいこととあります。このことは今からの肉用牛は、新しい研究による育成技術の導入が、いかに大切であるかがよくわがられます。

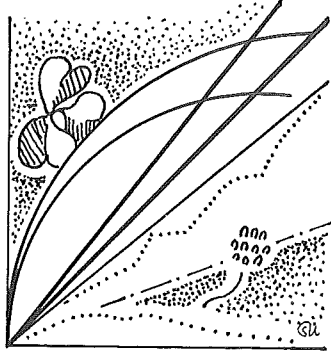
雌の部

この区は出品数が少ないので、各地区とも厳選されたものだったせいか極めてよく、優良なものが揃っていました。この区でも県下産地に勝田、久米が上位にあがって来たことが注目されました。この区では発育がよく、将来産肉性の要素を備えた体積のあるもので、体や後軀の幅が特に改良され、まことに立派であつたようでした。内でも均称のよくとあつたと思ひます。

質粗飼料などの給与で、候補の子牛の違いもあるでしょうが、先ず雄子牛を導入すると、十分な良質粗飼料（青刈牧草、できうれば畦畔のやわらかい野乾草か牧草）を飽食させ、幼令時の発育、助張り、体の深みを出すことが大切です。

雌は生後一八ヶ月までは、直線的発育をする（このことは外国の肉牛と同じ）ことは明らかです、この間の管理が、その後の成績を左右することは言をまぢません。もしこれら良質の乾草なり、冬期で青刈飼料がない時は、ヘイキューブを与えることも研究していただきたいと思ひます。

また、今年はなかったと思ひますが、過去ホルモン利用による育成をされたのではないかと思われることもありましたが、これは合成ホルモンの作用で精液の採取不能などの症状が出ますので、絶対に止めていただきたいと思ひます。



（子牛一歳後一二ヶ月未満）区

この区は出品数が少ないので、各地区とも厳選されたものだったせいか極めてよく、優良なものが揃っていました。この区でも県下産地に勝田、久米が上位にあがって来たことが注目されました。この区では発育がよく、将来産肉性の要素を備えた体積のあるもので、体や後軀の幅が特に改良され、まことに立派であつたようでした。内でも均称のよくとあつたと思ひます。

しかしこの区でも、胸幅や、肘後の充実を欠ぐもの、被毛の粗剛なものがあることを注意してはなりません。

子牛の共進会での審査は、なかなかむづかしい点があります。よく子牛の共進会での一等賞の牛は、成牛になって一等にはならない、かえって二等、三等のものが多いなどと言ふことを耳にしますが、しかし、そうばかりとは言えません。今までにも、子牛の一等首席の牛を成牛で、県共の一等次席にまで育成管理の指導をした例があります。

それは、子牛のもつ能力も、往々にして管理者が替り、その牛に合った育成がなされない場合は、その牛は光を放たないものです。やはり、その牛にはその牛

の発育に合った飼料の配合なり給与（粗飼料を含む）がある筈です。だいたい子牛では、将来性を見越した相牛も一部は考へてあることと、少なくとも子牛での一、二等の差は、その共進会のレベル、地域差、規模、齊一度により、その差は紙一枚のものであることは事実でしょう。

雌は生後一二ヶ月までは、直線的発育をする（このことは外国の肉牛と同じ）ことは明らかです、この間に十分な育成管理をして、発育をよくしておくことが大切です。

（生後一二ヶ月未満）区

この区では、来たる全共の出品候補牛が混じっており、今回の共進会では一番精彩を放っていたと思ひます。

一般的に発育がよく体積も十分あり、内でも体の深み、体の幅、背腰の状態が極めてよく、尻のよい、産肉形質に優れた点を兼ね備えた斉一性の進んだものが多かったことは、種牛原産の岡山県としては、まことよきことばしいことだと思ひます。

この区での改良を要する点は、下胸の充実、腿の広さと厚さ（外腿）と、下脚部があげられます。またこの区では、未だ年令の若い牛なのにやや過肥になっているものがあるものがありました。これらは今後の繁殖基礎牛として、障害が出て来るおそれがありますので、一考を要することだと思ひます。

SQUIBB 増体と肉質の改善にすばらしく効く

天然ホルモン肥育剤(耳根皮下移植剤)

シノベックス

S(去勢牛用)一黄色ベレット
H(雌牛用)一白色ベレット

輸入元 **日本スクイブ株式会社** 発売元 **昭和薬品化工株式会社**

東京都港区赤坂3丁目2番6号(赤坂中央ビル) 東京都中央区宝町1-5(味の案第一新館)

(生後十八〜二十二ヶ月未満)区

この区も一八カ月未満の区と大同小異ですが、前区より月令が進むにつれ、中軀特に肋腹のよいものが目立ったと思

ます。一般的には発育がよく、体積に富み、均称、資質などはおおむねよかったです。その他、後軀(尻)の幅、形、および乳徴も優れた点にあげてよいと思

ます。この区でも注意していただきたい点は、腿と前軀、特に肘後の充実の足りないものがあつたと思つて、また月令のいっ

ものがあつたと思つて、雌牛の過肥は、ばなりません。しかし私達は、現在の養鶏産業が、ただ単に規模を拡大していくことのみで十分な発展を望めるかどうか考へてみる必要があります。最近における多羽飼育、集団飼育、企業化などが、一般の町工場のように一定の面積内での生産性をあまりにも追及しすぎる傾向が表われ、これが鶏舎内の環境衛生を悪化し、多くの集団病の発生を招くことになりました。今回は鶏の自然の生態、生理とこれに適した環境衛生を一般的に考へてみることにしました。

まづ第一に、鶏の野生時代の生息状態を想像してみますと、野外の澄み切った空気を思う存分に呼吸し、湧き出る清水を飲み、糞など排泄物は、瞬間に下界へ落縁が切れる清潔な生活をし、外敵の襲撃に対しても安心できる高い処を自由に選ぶことができ、自分がほしいと思うものを自由に喰べている姿が考えられます。

第三に、鶏が私達に都合のよい飼養方法に馴れ、そのうえ十分に能力を発揮するだけの順応性をもったまことにありがたい動物ではありますが、これも簡単に成果を得たわけではなく、多くの人が永年に亘ってあらゆる研究と苦心を払った結果であります。

A 呼吸生理

第四に、鶏の生理と環境衛生とはどのようなものであるか考へてみることにしました。

養鶏試験場だより

鶏の生理と環境衛生について

研究員 諏訪 一男

最近の養鶏産業の発展は目覚ましいものがあり、新鮮な鶏肉、鶏卵をほしただけ食べられる時代がきました。まことにあ

りがないことでもあります。今後ますます需要が増大することはたしかであり、養鶏産業はそれに応じた発展をしなければ

第二に、自然のままの環境から現在のようにならざるを得ない原因となつております。一定の配合飼料を与えられるような飼養環境で、私達の欲する卵や肉を何もいわず生産してくれるようになったのは、鶏が人為的な飼養管理に対し、他の野生動物と比較にならない高い順応性をもつていたからであります。もしこれが無かつたとしたら、鳥と一諸で私達にはあまり

鶏は他の動物に比べ体が小さく、運動量および生産活動が極めて旺盛であります。したがって呼吸作用は極めて活発であるとともに、鳥類特有の呼吸器(体全体にわたる気管)をもっております。このことは空気の汚染、すなわち有害ガス、細菌、塵埃などの増加が大きな問題となつてきます。

ています。また鶏舎内のアンモニアガスで呼吸器粘膜を荒れることが、病原体の侵入を容易にすることも確かでありま

ることになります。この健全さを保つたためには、飼養管理面で快的な環境を与え、更に良質の飼料と水を与えるように努めなければなりません。

B 消化器生理

鶏の消化器は比較的短く、短時間で強力に消化し吸収するようになっております。この消化器での問題は、とにかく数多くの病原体、害虫を飼料や水と一緒に無選別で喰べるところで、呼吸器以上

さらに腸内には常にコクジウム原虫、カビ類、大腸菌類などが無数に存在し、消化器の抗病力の低下を待っている状況であります。

しかし、通常は病原体が侵入しても防御する能力がある程度備えておりますが、その健全さを失った場合は直ちに感染す

第五には、第四とは逆に、鶏体の生理に大きく影響する外的環境について、生理衛生の面から考へて見ることにします。(表II参照)

A 空気

表I ケージ飼養鶏の気温と採食、飲水量(ウイソソ)

気温	飼料摂取量(A)	飲水量(B)	(B)/(A)	糞量 / (A)
35.0℃	減少 649	増加 2999	4.65	増加 2.56
18.3	102	207	2.03	1.50
8.3	115	229	1.99	1.68
1.7	115	194	1.69	増加 1.62
	気温上昇による摂取量低下、極端な気温低下による摂取量低下	気温上昇による飲水量増加		気温の上下は消化不良はか?

新鮮な空気中の酸素は体積比二〇、九三%で、一五%になると呼吸数が増加し、一一%以下では呼吸困難を起しますが、自然の状態では酸素不足になることはまずありません。また、空気中の炭酸ガスの体積比は〇、〇三%であり、一般的に炭酸ガスの増加により被害を受けることもまずありません。しかし私達は、炭酸ガスの量を測定し、空気の汚染状況を知

アンモニアガスの空気中に含まれる量がおよそ二〇PPMに達すると、気道上部粘膜の水分に溶け込み炎症を起すようになります。また粘膜が荒れることにより(表III)のように他の病気にかかりやすくなり、産卵率低下、飼料効率低下など、すべての体力、能力が劣るようになります。したがって、鶏舎内空気の換気を図り、殊に中央部のアンモニアガス(床上一メートルに滞留)など有害ガス、塵埃などを薄めることに留意するとともに、清掃によりアンモニアガスを発生源をなくするよう常に考へなければなりません。

表II 鶏の環境条件

理化学的環境	空気・気道(風速)・光線・温度・湿度・騒音・塵埃など
飼養管理	飼料・水・運動・動物心理・衛生管理など
生物学的	細菌・ウイルス・内寄生虫・外寄生虫・その他動植物

表III アンモニアの暴露を受けた鶏のニューカッスル病感染状況

暴露時間	感染率(%)	備考
20 PPM 72時間区	53	
対照	25	
20 PPM 72時間区	100	
対照	54	
50 PPM 48時間区	100	
対照	45	

“酪農・養鶏機ならおまかせ下さい”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

TEL 岡山②0307(代) 岡山市外専用110
営業所 高梁・金川・児島

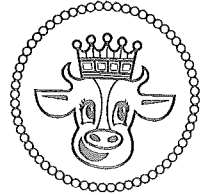
乳は国産 エサは全酪

団結は力！
系統利用は団結の象徴

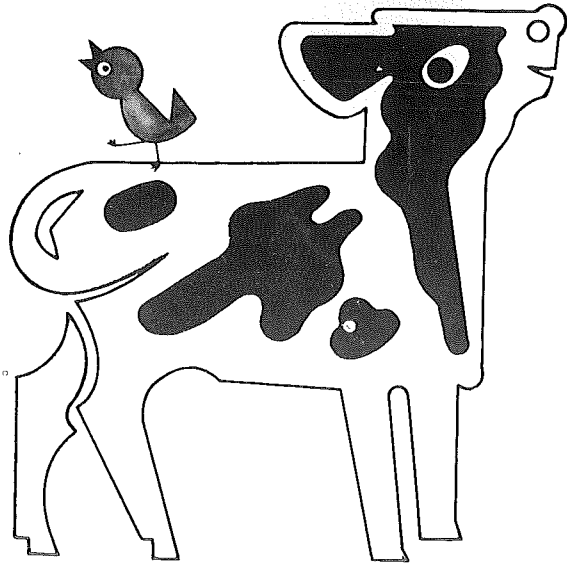
最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門的全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
幼牛用、搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！
全国酪農業協同組合連合会



(本誌)の予約申込要領

誌代 一部 五十円 (送料共)
年間予約約六百円 (送料共)
但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービスマン価格とす。

集団申込の特典
十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法
同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。
集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先
岡山市桑田町一丁目二番地
社団法人岡山県畜産会指導課
(電話) 岡山 18575番
(口座番号) 岡山八五七五番

岡山畜産便り (十二月号)

第二〇巻 第十二号 (通巻第二百七号)
昭和四十四年十二月一日発行

発行所 岡山市下石井二の六 穀士
編集人 蔵知津 律
印刷所 岡山市内山下七五番
振替 岡山 八五七五番
電話 岡山 八五七五番
ふじや 高速印刷所
一部五十円 (送料共)

編集室から

一九六〇年代もいよいよよあそとわずかと
なり、衆議院の総選挙とかさなりあわ
だしい年末を迎えている。

第二次大戦後の主権確保の政策により
米が余ってしまい、量より質の時代にか
わり、畜産重点の時代に突入しようとし
ているが、そのむこうには、貿易自由化
と価格不安定の落とし穴が待ちうけている。
日本の農業は未だ貧農の集りであるから、
自由競争によるコストダウンは現状では
むづかしい問題である。やはり一定の
価格維持があって、その中で経営安定
に努力する方向を示さなければ、農民の
大半は昔のニコヨンよりあわれな姿をさ
らすだろう。もっとも日本の食糧は自給
しなくともよいというのなら別で、全農
地の買上げでもして社会保障をしっかりと
すれば老いたる米作農業には幸いだろう。

B 光線 C 温度と湿度

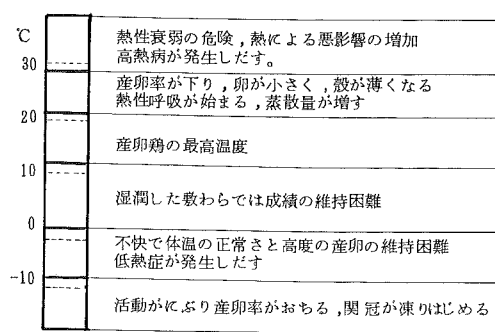
光線は鶏の成長、生殖に極めて大きな影響を与えます。したがって、太陽光線や人工光線を管理衛生面に利用し、自然の恩恵を大いに活用したいものです。また光線は、その波長により鶏の生理に有効に利用されたり障害を与えたりします。(表Ⅳ参照)

光線の利用は、産卵調節にはかなり古くから行われており、衛生面については最近太陽光線活用の青空養鶏や殺菌灯の利用が行われていますが、今後更に研究すべき点が多いように思われます。

表Ⅳ 光線の波長区分

	波長域	鶏への効果
X線	0.1~24 A	普通は強い害作用
紫外線	120~4000 A	強い時は害作用、弱ければ有効になる。
可視光線	紫~青色 4000~4900 A 緑~赤色 4900~7600 A	有効
赤外線	7600 A~0.3mm	一般に温度因子
電波	2 mm以上	不詳な点が多い

図Ⅰ 産卵鶏に対する温度の影響

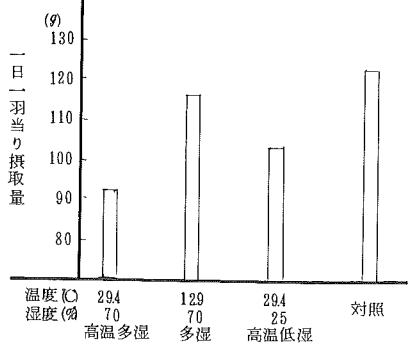


温度は鶏の健康に重要な影響を与えますが、湿度が加わるによりさらに相乗的な作用をします。例えば、気温の上下に関係なく空気が乾燥することが鶏の生理に不適となり、湿度が上がることによる急激に不快になります。また湿度が高くなれば有機物の腐敗、酸酵が進み、有害微生物やガスが多量に発生します。鶏に対する快適温度・湿度は温度が二三〜二三で相対湿度四〇〜六五多といわれており、この目標に近づけるよう努める必要があります。

ただし初生雛の場合は例外であります。

E 飼養管理

図Ⅱ 温湿度と飼料摂取量



この面での衛生的な問題は鶏の品種系統などの特性を十分に把握し、それに

D 塵埃

また温度、湿度の相異的な不快指數的なものは換気、通風を促すことにより軽減するもので、鶏舎内は常に保温防湿を兼ねた換気、通風を考案する必要があります。(図Ⅰ・Ⅱを参照)

鶏舎内の塵埃は殆んどが糞と皮垢、飼料であります。これが屋根裏、柱、金網などにもつり、そして常時落下し鶏病まん延のもとになっております。鶏舎の清掃、消毒は屋根裏まで綿密に行う必要があります。

F 生物学的環境衛生

これは細菌、ウイルス、原虫、寄生性動物植物に対する衛生ですが、これらによる発病は鶏の健康度がその重要な鍵を握っております。

たとえば環境の悪化により器質的(体の一部、粘膜のようなもの)にこぼされたり、または機能的(体のはたらき)に劣る健康度が低下した場合に、体内に潜在している病原体が急激に増殖し鶏を病気にしてしまいます。また常日項は体内に分布している無害菌とか大腸菌、カビ類などが災いをするようになります。

また鶏でもその他の動物でも、一定の面積か一定の容積内へ、ある一定数以上またはある一定期間以上に収容された場合、必ずといってよい程疾病が発生し、自然の陶汰作用でもいうべき損耗が生じます。

今後においても常に鶏の習性の観察と生理の探究をし、これに適した環境改善を考えつづけなければ養鶏産業の発展はないものと考えられます。